不定詞の基本

● 「to+動詞の原形」が基本形。この形を１単語のように扱うので，分割したりしない。

◎ 名詞的用法:「～すること」

→名詞と同じ働きをさせることができる。よって，主語，目的語，補語になる。

○ To grow plants is interesting.

※ 意味：「植物を育てることは面白いです。」

○ I want to have a dog.

※ 意味：「私は犬を買うことを望む。」→「犬がほしい。」

○ My hobby is to collect stamps.

※ 意味：「私の趣味は切手を集めることです。」

◎ 形容詞的用法:「～するための」「～すべき」

→形容詞と同じ働きをする。

→不定詞は１単語として扱うが，実際には２単語からなるので後置修飾する。

○ I want something to drink.

※ 意味：「私は何か食べるためのものが欲しい。」

○ I have a lot of things to do.

※ 意味：「私はすべきことがたくさんある。」

◎ 副詞的用法:「～するために」「～したので」

→副詞として働く

○ We went to the park to play tennis.

※ 意味：「私たちは公園にテニスをするために行った。」

○ I am so tired to work all day long.

※ 意味：「私は一日中働いてとても疲れた。」

◎ *否定形:「not to+動詞の原形」*

○ *名詞的用法なら「～しないこと」*

○ *形容詞的用法なら「～しないための」*

○ *副詞的用法なら「～しないために」*

※ *I'm going to bed early today not to sleep over tomorrow.*

→「明日寝坊しないように今日は早く寝る。」

©2001-2002 YSK http://www3.to/ysk.site

「疑問詞+to+動詞の原形」

● それぞれ，「疑問詞の意味+～したらよいのか」という意味になる。

◎ 例

○ How to use a computer is difficult.

※ 意味：「コンピュータの使い方は難しいです。」

※ how to：「～のやり方」

○ I don't know what to do next.

※ 意味：「私は次に何をすればいいのか分からない。」

※ what to：「何を～すればいいか」

○ Please tell me when to start.

※ 意味：「いつ始めればいいのか教えてください。」

※ when to：「いつ～すればいいか」

○ Do you know where to get the ticket?

※ 意味：「どこでチケットが手に入るか知っていますか？」

※ where to：「どこで～すればいいか」

○ I wondered which to choose.

※ 意味：「私はどちら(どれ)を選ぼうかと思いました。」

※ which to：「どちら（どれ）を～するか」

※ ２つの選択肢の場合でも，それ以上の場合でも使用可。

● what to～や which to～は疑問詞と to の間に名詞を入れることができる。

◎ 例

○ I can't decide what subject to take.

※ 意味：「私はどの教科を取ればよいのか決められないよ。」

※ what ～ to：「どの～をすればいいか」

○ I didn't know which way to go.

※ 意味：「私はどちらの道へ行けばよいのか知らなかった。」

※ which ～ to：「どちらの～ならいいか」

©2001-2002 YSK http://www3.to/ysk.site

特殊構文

● tell/ask/want 人 to ～

◎ 例

○ I told him to carry my baggage.
= I said to him, "Carry my baggage."
※ 意味：「私は彼に私の荷物を運ぶよう言った。」
※ 内容としては命令文。

○ I asked her to lend me her notebook.
=I said to her, "Please lend me your notebook."
※ 意味：「私は彼女にノートを貸してくれるよう頼んだ。」

○ I want you to come with me.
=I would like you to come with me.
※ 意味：「私はあなたに一緒に来てもらいたいのです。」
※ これは言い換えた文のほうが控えめな表現になっている。

◎ *ちなみに３つ目の例文を you の後で切って読むと誤解を受ける。*
→I want you.「私はあなたが欲しい」

● 仮主語(形式主語とも言う)の it

◎ 例

○ To study English is important for us.
→It is important for us to study English.
※ どちらも意味は同じで「英語を学ぶことはわれわれにとって重要だ。」
※ 英語では主語が長くなるのを嫌うので，まず特に意味のない It を主語にし，その後最後に本当の主語である不定詞句を持ってくる。
※ for ～ の部分を不定詞の意味上の主語なんて呼んだりするが，結局「～にとって」ということを表しているに過ぎない。
※ 疑問文と否定文は普通の be 動詞の文と同じやり方で作ればいい。
→Is it important for us to study English?
※ *これはものすごくよくある例文。*

©2001-2002 YSK http://www3.to/ysk.site

● too～to…「あまりに～なので…できない」

◎ 例

○ I was too hungry to walk any more.

※ 意味：「私はお腹が減りすぎてもう一歩も歩けなかった。」

※ 訳し方は上に書いた通りなのだが，もともと too には very や so と同じような使い方があって，「あまりに～すぎる」という意味がある。だから，この構文は 1 つ前の項目(It～for～to)の変形に過ぎない。だからこの構文も「～にとって」という意味を入れたい時は for～というのを不定詞の前に入れればよい。

※ 書き換えは I was so hungry that I couldn't walk any more.

● enough to「～するのに十分だ」

◎ 例

○ I am old enough to drink.

※ 意味：「私は酒を飲むのに十分な年齢だ。」→「私はもう酒の飲める年だ。」

※ これも「It～for～to」の変形。だから「～にとって」という意味で for～を入れられる。

※ *書き換えは I am so old that I can drink.（あまりこれを書き換えることはない）*

©2001-2002 YSK http://www3.to/ysk.site